No.6　2021. 1. 22

山口県教育庁 地域連携教育推進室

山口県 地域連携 教育通信

C.E.P.O.ニュース（セポ）

Community Education Promotion Office

高校生大活躍！　進む校種間連携

今回は、高校生と小・中学生がコミュニティ・スクールの仕組みを生かして連携した取組を紹介します。

県立光丘高校・光高校　連携　光市立浅江小学校

地域課題の解決に向けた「熟議」の内容が、高校生の力によって実現された取組です。
コミュニティ・スクールの仕組みを生かした校種間の連携により、高校生が身に付けてきた「学び」が小学生へと受け継がれていく事例として参考になります。

冬休みを間近に控えた 12 月 23 日（水）、小学生に「SNS の正しい使い方・関わり方等」を知ってもらうために、光市の高校生がオリジナルの演劇を制作し、地元、光市立浅江小学校の５・６年生に披露しました。

この取組は、浅江中学校区で行われた「あさなえネット熟議」に高校生が参加したことからスタートしたものです。８月にあさなえ学園（浅江小・浅江中）の重点課題である「SNS の利用」をテーマとした『熟議』を 120 人規模で実施し、地域・家庭・学校のそれぞれの立場から何ができるかを議論しました。それを受けて、熟議に参加していた高校生たちが、「自分たちにできることはないか」を考え、自ら企画したのが今回の取組です。光丘高校の生徒会が脚本を書き、光丘高校・光高校の演劇部と力を合わせて実現させました。

高校生の企画によるオリジナル演劇

高校生の身近な体験に基づいて制作されたオリジナル演劇は、「ゲームによる課金」「SNS への書き込み」という、2 つの場面設定で構成されていました。また、どうすればインターネットのトラブルを未然に防ぐことができるのかをクイズ形式で考えさせ、意見を出し合わせるなど、小学生が当事者意識をもって「自分ごと」として考えることができるような展開も工夫されていました。

小学生にクイズのヒントを出す高校生

高校生の熱演を鑑賞した小学生からは「とても分かりやすかった」「自分が SNS やゲームを使うときはしっかり気を付けたい」という感想が聞かれました。

今回の取組を企画した高校生の**「地域のために、自分たちにも何かできることはないかとがんばりました。」**という言葉に、光市が進めているコミュニティ・スクールの仕組みを生かした地域連携教育によって培われている確かな「子どもたちの育ちや学び」が感じられました。

県立萩高校 連携 萩市立萩東中学校

高校生がこれまで身に付けてきた「学び」が、交流を通して中学生へと受け継がれている事例です。中学生へアドバイスを行う活動は高校生にとって、これまでの自らの「学び」を振り返り、自己有用感を感じることのできる機会にもなっています。

12月8日（火）、萩東中学校1年生と萩高校探究科1年生による合同熟議が行われました。

この合同熟議では、「ふるさと萩ってぶちすごい！」のテーマの下、中学生は「ふるさと学習」で学んだ「ふるさと・萩」の自然の美しさや世界遺産などを資料にまとめ、高校生は熟議をしっかりと進めることができるよう事前に「ファシリテーター研修会」を実施して臨みました。

萩東中学校の生徒と萩高校の生徒による熟議

当日は、中学生と高校生が20のグループに分かれ、中学生が事前にまとめた資料を基に熟議を行いました。**資料の内容やまとめ方についてアドバイスをしつつ、熟議をファシリテートする高校生の姿は、中学生にとって頼もしい先輩の姿であり、中高連携の取組の中で「学び」がつながるとともに、「憧れ」の連鎖が生まれていました。**

懸命に発表する中学生に寄り添い見守る高校生

両校はこれからも定期的に熟議を重ねていくことにしています。さらに、今後は地域の方々にも参画していただき、中学生・高校生双方の学びをより深めていきます。

県立小野田高校 連携 山陽小野田市立竜王中学校・赤崎小学校・本山小学校

学校の特色を生かした小野田高校の取組は、山陽小野田市が進める「かるたによるまちづくり」の象徴的な取組であるといえます。今後は校種間連携だけではなく、生涯学習の観点から市や公民館などと連携した地域貢献の取組としても推進していく予定です。

小野田高校の学校運営協議会には地元中学校長や山陽小野田市の首長部局関係者、さらに山口県かるた協会顧問が委員として参画しています。こうした小野田高校の学校運営協議会のネットワークも生かして、山陽小野田市内にある小野田高校、竜王中学校、赤崎小学校、本山小学校が連携・協働し、初めての小中高連携かるた交流会が開催されました。

かるたについて高校生の説明を真剣に聞く小・中学生

10月13日（火）に開催された交流会は、小野田高校かるた部員による競技かるたのデモンストレーションから始まり、小・中学生同士の対戦、かるた部員1名対小・中学生3名の対決など趣向を凝らした取組により、大いに盛り上がりました。**また、高校生と小・中学生とのコミュニケーションも深まり、小・中学生のかるたに対する興味・関心も高まったようで、「かるたによるまちづくり」の更なる活性化が期待されています。**